



あかど

荒川区立赤土小学校
学校便り 7月号
令和5年 7月 3日
校長 石塚 秀行

<http://www.aen.arakawa.tokyo.jp/AKADO-E/>

教育目標

- よく考え、実行する子
- 思いやりのある子
- 元気な子

最高の自分にチャレンジ

校長 石塚 秀行

4年ぶりに応援合戦や大玉送り(全校競技)が戻ってきた運動会。参観人数の制限もなく、沢山の方々に応援していただきました。今年の運動会を振り返ってみたいと思います。

前日のリハーサルは雨天のため体育館で行いました。子供たちが作ったてるてる坊主が校内に飾られたのもこの日でした。午後からは雨が上がり、明日の晴天を祈りつつ主事さん方が校庭の水たまりを掃いてくれました。柔らかいところには砂を入れ準備を終えました。祈りが通じたのか、当日は熱中症を心配しないで済む程よい曇り空となり第100回運動会を開催しました。

子供たちが考えた今年のスローガンは「希望をもって全員でチャレンジ ～100回目のバトン」です。全力を尽くしてこそ、希望が見えてきます。子供たちへは、「転んでも、靴が脱げても全力でゴールを駆け抜けよう。仲間と作り上げてきた表現種目は、お互いの息遣いを感じながら協力して表現しよう。最高の自分にチャレンジしよう。」と伝えました。



表現種目の練習では、担任の先生方に叱咤激励されながら、完成させていきました。本番が近づき皆の心が同じ方向に向いた時には沢山ほめてもらいました。家でも練習していましたが、保護者の皆様の感想に書かれていました。本番ではその成果を存分に出すことができました。大きな動きで表現する子供、一つ一つの動作にメリハリをつけている子供、掛け声を一生懸命に出している子供、それぞれの形が一つにまとまりとても素晴らしかったです。

かけっこ・短距離走ではほとんどの子供がゴールを全力で駆け抜けていました。体全体から表れた全力のオーラが目に焼き付いています。最後まで走り抜ける姿、あきらめずにゴールまで走る姿に感動しましたと、保護者の皆様の感想に書かれていました。勝敗だけでなく、子供たちの真剣さが感動を呼んだことを、とても嬉しく感じます。

応援合戦では応援団が皆を引っ張り、全員が声を張り上げていました。競技中にも応援する姿があり、気持ちを一つにする事の素晴らしさを子供たち自身が感じたのではないかと思います。リレーでは、特に高学年の子供たちから負けた時の悔しさを感じていたのが伝わってきました。休み時間や放課後に、勝ちたい一心で繰り返し練習してきたからこそ悔しさも大きかったのだと思います。さらに、6年生の子供たちは係の仕事に責任をもって取り組みました。用具係、審判係、得点係・・・、人のために、学校のために役立つことの大切さと喜びを感じたのではないかと思います。



全てがよい経験です。4年ぶりの全校児童が会して行った運動会、この行事を通じて子供たちが成長できたことと、地域、保護者の皆様と感動を分かち合えたことを嬉しく思います。今後も、子供たちを温かく見守り、健全育成のためにご協力いただけますようお願いいたします。会場の準備や後片付け、参観が円滑に行えるよう見守りをしてくださったPTA、父の会の皆様ありがとうございました。

1学期はあと20日となりました。学習と生活のまとめを行ってまいります。夏休み前の学校生活が充実するようご家庭でも励ましてください。

あゆみについて

教務主任

日頃より、赤土小学校の教育活動へのご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、本校では目標に準拠した評価のもと「あゆみ」を作成しております。子供たちは、自分がしたことの良いことや発想が認められることにより、自信が出てきて、前向きに明るい見通しをもてます。努力の様子を認め、良さや長所を伸ばすという立場で「あゆみ」を見ていただくと、励みとなることと思います。

昨年度までは 1 学期のあゆみ(ファイルに綴じ込んだもの)を2学期・3学期のはじめに回収してました。今年度より、1学期に配付したあゆみ(ファイルに綴じ込んだもの)は、家庭で保管していただき、2学期、3学期に配付したあゆみを家庭で綴じ込んでいただけますようよろしくお願いいたします。

お子さんが持ち帰るあゆみをご覧になり、1学期を振り返り、2学期のめあて作りの参考にしてください。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

自分にチャレンジ～記憶に残るソーラン節に～

5年生担任

5年生は、赤土伝統のはっぴを纏い、ソーラン節に取り組みました。今年度は、「団結」と「抑揚」をテーマに練習に取り組みました。練習初めは、踊りリーダーを中心に、個の踊りのレベルアップを目指しました。動きのキレや目線などを意識して、互いに高め合っていました。さらに、「全体の踊りがよりよくなるためにはどうしたらよいか」について、動画を見て研究したり、何度も移動の動きを確認したりしました。自分なりの考えをもち、主体的に取り組む姿はとても立派でした。運動会当日は、子供たちのなかの最大限の力を出し切り、たくましく踊り切ることができました。



腰を低くして踊ることを意識しました。

習熟度別学習より

習熟度別算数

赤土小では、算数習熟度別学習を次のように行っています。3年生から6年生まで5グループ編成です。単元ごとにグループメンバーは変わります。グループ編成の参考としてレディネステストを各クラスで行い、その結果を考慮してグループを決めています。均質グループの良さは、困難に感じるところが似ているので、そこに焦点を当てて授業をすることでより分かりやすくなることです。また、課題の解決進度が似ているので時間が不足したり持て余したりすることが減るといふよさもあります。

算数教室では、グループに合わせて問題解決型の授業を行っています。問題解決型とは、『本時のめあてと課題をつかむ→解決の見通しを立てる→自力解決→グループ協議→全体協議→まとめ→振り返り』という流れで課題解決を図る授業です。

学年やグループによって、小グループ協議の持ち方はやや異なりますが、赤土の子たちは、友達と『伝え合う・確認し合う・話し合う』といった友達と高め合う活動の好きな子が多いです。発表が大好きな子もいます。また、発表が苦手でも友達の考えをじっくり聞いて解決方法を理解していく子もいます。



友達に考え方を説明しています。



自分が考えた図や式を黒板にかいて説明します。それを皆で考え合い、最適解を求めていきます。



小グループで互いの考えを持ち寄り、自分の考えが友達と同じか違うか、合っているか間違っているか等、説明し合います。

課題解決にネックになるのが、かけ算九九や繰り上り・繰り下がりといった計算力です。せっかく式を立てることがうまくいっても計算で答えが間違えると学習意欲が減退したり、計算に

困難を感じるあまり算数そのものを嫌がったりもします。「計算は練習すればするほど上手になるよ。」「最初は時間がかかるけれど慣れれば速くなるよ。」と子供たちに伝えていきます。計算問題を毎日5問解くだけでも計算力がついていきます。計算力が不足かなと感じられたら、ご家庭で自主学習として取り組ませていただけたら嬉しいです。



3年生では、初めて巻き尺を使い教室の縦・横など長い長さの学習をしました。巻き尺で曲線の物の長さも図りました。長さでは、kmなど長い距離・道のりも学習しました。

6つの教室に分かれているので、のびのび活動しました。

